

年 組 番  
(名前)

<新聞記事から考えよう>181114



# 脱プラの動き広がる

(佐賀新聞 2018.11.14 付)

<企業の動き>

<政府の動き>

環境汚染対策として国内的にプラスチック規制強化が進む中、プラスチック製のストローやカップの利用をゆるめる動きが国内で広がっている。その代替開発は、新たな

**けいぞい トレンド**

三井住友海上火災保険は8月から、本社の社員

▽紙製に

ビジネスチャンスになるとして化学社などが取り組み始めた。

脱プラの動き広がる

代替品開発に「商機」

プラスチックの使い捨てのストローとカップの使用をやめた。飲み物を注ぐと、紙製のストローが相次いで手渡される。カップのプラスチック製ストローの廃止を表明した。国内でも普及の切り替えを急ぐ。

三井住友海上火災保険の社員で、紙製のストローやカップに入った飲料を手に取る社員(左)。東郷千代田区。

TGMが開発を進める、生分解性がある「LIME Xライメックス」を用いた紙製品。

スガ廃止方針を示しているが、社員食堂での廃止は珍しいケースといえる。

この社員食堂から出ていたプラスチックは適切に処理されて問題がなかったが、社員への啓発を進め、廃止に踏み切ったという。地球環境・社会貢献部の浦嶋裕子課長は「職場で脱プラを身近に感じ、社員が新たなビジネスモデルを意欲して仕事に取り組めるようになった」と話す。

▽生分解性

プラスチックに替わる分解しやすい「生分解性プラスチック」の開発

三菱ケミカルは、生分解性プラスチック素材の製造に注目を集めている。

「バイオPBS」を製造する三菱ケミカルは、生分解性プラスチック素材として注目を集めている。

石炭石は安価な上、プラスチックや水を使わないため、環境負荷が少ない。

既に一部自治体で家庭用ゴミ袋に採用されたほか、耐水性や自然分解の置き替える、生分解性利点が評価され、紙コップの内側に塗る素材にも選ばれた。三菱ケミカルはバイオPBSを使ったストローなどの試作を開発しており、外食チェーンなどで導入を目指している。

ベンチャー企業「LIME X」が開発している。

プラスチックが深刻な海洋汚染の原因として国際的に規制強化が進んでいる。

**プラごみ戦略案了承**

中環審小委 削減の基準年示さず

中央環境審議会は13日、プラスチックごみ削減に関する小委員会で、レジ袋有料化の義務付けや、ペットボトルを使い捨てプラスチック排出量の2030年までの25%削減を盛り込んだ環境省の「プラスチック資源循環戦略」案を了承した。

排出削減の比較対象となる基準年は、産業界の異論などに配慮して明示しなかった。

パブリックコメント(意見公募)を経て、来年3月までに正式決定し、6月に大阪で開催する20カ国・地域(G20)首脳会議で、

プラスチックごみは、ペットボトルやレジ袋、食品包装、電化製品や自動車部品といったプラスチック製品を廃棄したごみで、2016年の国内排出量は899万トン。発電や廃熱利用、リサイクルなどで84%を有効活用したが、残り16%は焼却・埋め立て処分となった。不法投棄などにより、世界で年間800万トンとみられる。紫外線や波の力で大きき5mm以下に分解された海中のマイクロプラスチックは、有害化学物質を吸着する性質があり、誤飲した魚や海鳥などへの影響も懸念される。

13日の会合では、一部の委員から「ペットボトル削減の具体策が不十分だ」と述べ、具体的な削減目標や、海洋汚染の防止に向けた途上国のプラごみ対策支援も盛り込まれた。

政府方針として打ち出す。植物などを原料とするバイオ素材の利用拡大や、海洋汚染の防止に向けた途上国のプラごみ対策支援も盛り込まれた。

☆関連記事 政府の動きは2018.10.14 付ワークシートも参照

## ◎記事から読み取ろう

○三井住友海上火災保険の取り組みとそのねらい

○三菱ケミカルの「バイオPBS」の特徴

◎広げよう・深めよう・◎自分の考えをまとめよう \*友だちと意見交換したり、家族と話し合ったりしよう。

○このような政府や企業の動きに対して、私たちはどのような生活を心がけなければならないでしょうか。